

大阪の豪商に嫁ぎ、趣味人の夫に代わって店のために働き、子育てをしながら炭坑事業や銀行、生命保険会社と次々に事業を立ち上げ、さらには女性の未来のため、日本初の女子大学の創設に尽力した女性実業家「広岡浅子」。「広岡浅子」をモデルとしつつ、激動の時代を生きた夫婦の愛の物語として構成した連続テレビ小説「あさが来た」(NHK総合)のヒロイン。

—— 物語上、既に婚約者がいた幼少期、次々に新しい事業を立ち上げた時代、女子大学創設に尽力したりと波瀾万丈なんですけど、ご自身で、もしそのうちどれか一つを実際に体験するならどの時代を体験してみたいですか

私、何ができますかね。会社を立ち上げるというのは大き過ぎる話かなと思いますけど、自分の発想で何か企画を動かしてみたいという気持ちはあるので、それはちょっと興味がありますね。

—— あさちゃん(ヒロイン)と新次郎さん(許婚)のように、女性が外でバリバリ働いて、男性が専業主夫のよう

な形で家庭を守るという形は現代でも見られるようですが、そういう夫婦のあり方についてどう思いますか。また、波瑠さんご自身の理想の夫婦像は

「あさが来た」の世界だと、まだあさちゃんの行動は珍しくて、周りに心配されるような関係性ではあります。でも、人はそれぞれ違うし、もちろん夫婦もそれぞれ違う形があつていいと思うので、お互いが心地よく支え合えれば何の問題もないと思います。私もこういうお仕事をさせてもらっていますし、結婚したらお仕事は引退しますという考えにもなかなかないか、というか、お仕事はしていく前提で結婚もしたいです。なので、私もあさちゃんのようにバリバリ外で働いて支えてもらえるような結婚がいいなと思います。

—— 新次郎さんのような男性は波瑠さんご自身はタイプでしょうか

タイプかどうかと言われると、タイプではないです。私、働かざる者食うべからずでしょと思ってしまうので、あさちゃんに自由にお仕事をさせてくれるという点ではとても物わかりのいい理解のある旦那さんだなと思いますけど、奥さんを働か



逆境を力に変える
“朝ドラ”のニューヒロイン

せてお三味線して、唄って。そういう意味で言ったらタイプではないですね。あさちゃんにはぴったりだと思いますけど。

— 気分が沈んだときは、どのようにして上げるのでしょうか

寝ます。私はあまり引きずらない性格なので、今日はだめだったな、明日頑張んなきゃな、寝ようって。それで、よし今日頑張るぞって起きます。

— 弁護士との接点がありますか

ないです。お世話になったこともないですし、会ったこともなかったですね。

— 弁護士のイメージはどうですか

弁護士のイメージ、難しいですね。本当に一握りの人だけがなれる、すごい難関を何個もクリアしないと得られない称号なわけじゃないですか。だから、すごい選ばれた人になってるんだなと思います。— 何で笑ってるんですか。

— いやいや、オーディションの話を知ると、波瑠さんは2500人以上から選ばれたんですね

そうですね。

— その中のオンリーワンじゃないですか。そんな方から言われたら、いやいやとなります

いやいや、私たちは運であったりタイ

ミングであったりいろんなものが後押ししてくれてそういうものを手にできているだけで、勉強とか、私たちは資格はないですから、いろいろな積み重ね方は違うと思いますけど、ちゃんと身につけるものを身につけないと弁護士さんにはなれないじゃないですか。

— 逆に言うと、まじめにこつこつ勉強していけば受かる部分もあると思うんです。でも、こういうお仕事はさっきおっしゃったみたいに運というか、人とのめぐり合いとかがあって初めてなれるじゃないですか。そういうことこそ大変じゃないですか

まあ、それはちょっと図太くなるぐらいで、そこに神経を使って自分がだめになるのはもう元も子もないですから、そこは受け流していかないと。適当なところも持ち合わせているので。

— この芸能界で生き残っていくというか、勝ち残っていくためにはそういうマインドが…

必要なのか、女優業もまだ全然何もかもが途中というか、真ん中にいるので、結果的にこうだったと話せることはあまりないですけども、今こうやって朝ドラのヒロインという役をやらせてもらって、私の親が何よりびっくりにして、この仕事は一握りの人しかやっていけないはずの仕事なのに、何でうちの娘がそんなこ

とをやっているのか、今でも現実味がないと言うんですよ。

— 親御さんは、おまえならできるとか、やっと来たか、やっと周りが認めてくれたかぐらいの…

全くないですよ。私にそういうふうに、いけるよ、大丈夫だよ、自信持てよと言ってくれる人はほとんどいないです。みんな厳しいので。

— だから、しっかりされているんですね

うーん、どうでしょう。

— これまで小さな役もたくさんやってきたとお聞きしましたが、小さい役をやっているときに色々と努力をされたと思うんです。その頃、気を付けていたことはありますか

同世代の共演者となれ合ってしまったら意味がないというか、友達にもなりたいし、友達が現場にいることはすごく快適だと思うんですけど、そういう姿が全て見られていて、遊びじゃなくここに立っているという意識を忘れずにいなきゃいけないとか、そういう努力はもしかするとほかの同年の女優さんよりも神経を使っていた部分かもしれないです。

— プロフェッショナルですね

そういう考え方が、そのときは何だろうな、身動きがとりづらいなと思うことはありましたが、今となってはそういう時間を経験していてよかったなと思いま

す。何事も経験というか、過ぎてみれば笑えるし。

— やっぱりすごい、オンリーワンに選ばれるだけの…

いやいや、本当に運というか、ラッキーというか、そんな感じですよ。

— 最後に、弁護士会に向けてPRをお願いします

弁護士の人も日々逆境を相手にしていかなくちゃいけないお仕事じゃないですか。そこにちゃんと筋を通していかなくちゃいけないし、そういうのは「あさが来た」のあさちゃんも本当に逆境の連続で、いつもこてんぱんにやられるぐらいです。でも、逆境だからこそ、それも力に変えて前に進んでいくその前向きな姿勢が、よし今日頑張るぞというポジティブなメッセージになって、皆さん、働く人たちに届くと思います。

(Interviewer: 伊田真広)



連続テレビ小説『あさが来た』放送予定

〈総合〉

月～土 午前8:00～8:15 午後0:45～1:00〔再〕

〈BSプレミアム〉

月～土 午前7:30～7:45 午後11:00～11:15〔再〕

土曜日 午前9:30～11:00〔一週間分〕

info